

## 令和七年度徳島文理中学校後期入学試験問題

## 第一限 国語

(その一)

注意 解答欄は問題用紙の(その五)・(その六)にあります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学技術には良い面もあれば悪い面もあります。最初は良い面に注目が集まりますが、ある域を超えると今度はネガティブな面が強調されていきます。ダイナマイトを考えてもそうでしょう。最初は人間の力が及ばない物を壊すために非常に役立つのに、それがやがて社会を破壊する戦争の道具に使われるようになりました。言葉も同じです。

言葉は、人間が手にした技術の中で最初にして最大のものといってよいと思います。人間の認知能力は、言葉の発明によって一度つくり変えられました。これが、「認知革命」と呼ばれるものです。かつて言葉は人々の間のトラブルを調整するための交渉にも使われていたはずだし、集団間の暴力を鎮めるためにも使われていたでしょう。だから人間は集団を大きくすることができました。国家という巨大な組織をつくることもできたのも、言葉によってバーチャルな世界をつくり、その物語を共有してみんながまとまれるようになったからです。ダイナマイトと同様、最初は言葉もよい作用をもたらしました。しかし、やがてその言葉が、暴力をつくり出すために使われるようになると、だんだん人間にとってネガティブな作用をし始めます。言葉を発達させるうちに、文字も生まれました。最初は、石や木に書いていた文字を、紙に書くようになり、やがてそれを印刷するようになる。さらに技術が進み、テレックスができ、ファクスが生まれ、そして今、ぼくたちはインターネットを通じて電子文字でつながるようになりました。

そもそも文字を介した理解には、常に疑いがつきまといまいます。会って話していれば、発せられた言葉だけの意味ではなく相手の顔の表情や仕草、声色から裏の意味や背景を同時に感じることができます。相手の言葉を聞きながら、「おそらく嘘を言っているな」とか「本気みたいだな」と思ったりするのは、人間は言葉を話しているとき、無意識のうちに感情を出すものがあり、同時に相手の感情を読み取る能力をもっているからです。話し手は、相手の解釈が間違っていると感じたら訂正することができません。本来、言葉の役割が発揮される場所は、こうしたやり取りが可能な場面でした。

しかし、文字は読み手本位のコミュニケーションツールであって、対話ではありません。書いた人はその場にはいないので、読み手の勝手な解釈が許されます。読み手本位であるために、ときに誤解を生んで書き手が思ってもいなかった結論になったりします。再現する過程で誤解が生じるのは当たり前で、それを避けることはできないのです。

ラインなどのSNSがあたかも対話しているかのような使われ方をしていますが、それは、あくまでシンボルを使った文字世界の延長です。ラインを利用して人の中には、すぐに返事が来るから対話と同じような信頼関係をつくれていてと反論する人もいるかもしれませんが、その論理には二重の意味で誤解があります。

一つは、言葉は抽象化されたものだということ。誰かと話をしていても、それは出来事すべてを表しているわけではなく、出来事をいったん言葉という抽象的なシンボルに集約してそれを再現しているだけのものです。実際には、言葉だけで相手の感情はわかりません。

もう一つは、文字化したり、肉声ではないものに変換してしまったりした場合、そこにさらに時間的な要素が加わるということです。言葉を話すということは本来、瞬間の作業でもあります。対話を書き言葉にすると、Aさん「…」、Bさん

「…」というように、時系列に並べられることになりませんが、実際は、相手が話しているとき、相手の言葉を聴きながら、自分が次に話すことを考えている。それは書き言葉では表現できません。文字は、相手の言葉を受けて考えた結果出てくるもの

## 令和七年度徳島文理中学校後期入学試験問題

## 第一限 国 語

(その二)

ではあるけれど、その瞬間に自分の胸の中に生じた感情とは違うものです。書き文字の行間を読み取ることはできても、実際に言葉を肉声をもって交<sup>か</sup>わし合<sup>あ</sup>っている状<sup>じょう</sup>況<sup>きやう</sup>とは違うのです。そこにも齟<sup>そ</sup>齬<sup>ご</sup>(くいちがい)が生じます。ぼくたちは、誰<sup>だれ</sup>かに会いに行くときには、服装や身だしなみを考えますね。相手によっては敬語も使う。そういうときの緊張<sup>きんちやう</sup>感は、身体からほとばしり出るものです。ところが、スマホで言葉を文字でやり取りするだけなら、礼儀<sup>れいぎ</sup>も敬語もそれほど気にしなくてもいい。だから相手によって変えることをしなくなります。相手が不特定多数であれば、ますます身構えがなくなっていくます。

(山極寿一『スマホを捨てたい子どもたち』より)

問一 傍線部①「ダイナマイトと同様、最初は言葉もよい作用をもたらしました」とありますが、

- 1 「ダイナマイト」の「よい作用」を、「くこと。」という形で、三十字以内で答えなさい。
- 2 「言葉」の「よい作用」を、「くこと。」という形で、五十字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「その論理には二重の意味で誤解があります」とありますが、

- 1 「その論理」とはどのような論理ですか。四十字以内で答えなさい。
- 2 「二重の意味」での「誤解」とは、どういう誤解ですか。八十字以内で答えなさい。

## 令和七年度徳島文理中学校後期入学試験問題

## 第一限 国語

(その二)

二 次の随筆を読んで、後の問いに答えなさい。

退屈している人の姿を思い描く時、その人は身の置き場がないように、立ってみたり坐ってみたり、書棚の前に立って、既に読んだ本の中から、もう一度読んでみたいと思う本を探したりする。その動作には全く落ち着きがない。約束の場所に相手の人が来ないで苛々し出している人とそっくりである。退屈とは何れにしても、何も手につかない苛立ちのことである。

退屈している人は、欠伸はするかも知れないが、そんなに動き廻ったりはしないものだ。教えてくれる人がいる。確かにそれもそうである。全然動かずに苛立つこともあるから、それも認めることにしよう。

だが動かずにぼんやりしている人を直ちに退屈している人と決めてしまうことは出来ない。一日、何もしないでぼんやりしていたという人に向って、それはさぞかし退屈だったろうと同情するものではない。① ぼんやりしているのと、退屈しているのとは大きな違いがある。

ぼんやりしているのは人間にとって非常に大切な貴い時間である。単に漠然と貴いと言っている訳ではなく、この間に、本人はどの程度意識しているか分からないが、必ず貯えられているものがある。

どんなものが貯えられているか。例えば。いやそんなに性急に畳みかけるように尋ねるものではない。

ぼんやりしている人間を見て、それを素直に受け取れない人は、何か考えごとをしていると思う。一体何を考えているのだろうか。何か特別の事情があつて悩んでいるのではあるまいか。いや、それよりも、ひよつとすると、自分がこちらから不安そうな顔をして見ているのが分かっていらいから、当て付けにあんな容子をして見せているのかも知れない。

② ともかく人間はお節介で、他人のこうした容子を見た時に放って置けない。

幼い子供もぼんやりしていることがよくあるが、これが別段大して珍しくもないのにその容子を見ると大人は非常に気を揉む。可哀そうに。何がそんなに淋しいのだろう。親がいつの間にか見えなくなったのであるまいか。それとも、誰かにひどい仕打ちを受け、それに対して何をする力もなく、口惜しい想いを憶えているのではあるまいか。そうではなく、拾つて大切にしていた一本の赤い釘を何処かで落して探しても見付からず、それを悩んでいるのかも知れない。

確かにそうした原因があつて、悲しい想いに沈んでいることもある。ただ、ぼんやりしているのか悩んでいるのかは、かなり子供の近くまでそつと行つて見ても見分けのつきにくいものである。それ程外見や表情がよく似ている。

それに、大きな思い違いをしている人もいる。子供が長い間ぼんやりしているはずは絶対はない。あれはもう自分の人生が終わったと思ひ込んでいる人間のすること、生まれてまだ二年か三年しかたっていない者がぼんやりするのは異常だ。きっと何処か具合が悪いのだろう。

③ 子供にとつて、ぼんやりすることは確かに必要なのである。あの間にどれ程育つかを知らずに心配ばかりしている親もいる。人間は或る種の昆虫のように蛹の時期がない。ぼんやりするのは、ちょうど蛹の時期にあたると思つていい。蝶は幼虫から直接翅が生えて空に飛び立つ訳ではない。羽化するためには、蛹となって静かに冥想しているような長い時期がどうしても必要である。

親は子供が、一日中元氣よく動き廻り、跳ねて遊んでいることを願っている。もしじつとしている時があるとすれば、好奇心を抱いて、事物を見たり聞いたりしていることをひたすら願っている。少々虫のよすぎる願いはあるが、それはそれで分かる。何故なら、餘り屢々、一日に何時間にも互つてぼんやりする習慣のある子供には、充分注意する方がいいからだ。

## 令和七年度徳島文理中学校後期入学試験問題

## 第一限 国語

(その四)

何処かの石段の途中、縁先、砂丘の天辺、その場所はどこでも構わない。何かに寄りかかって、何を見ているのか分からない眼差しで、ただじっとしている時には、矢鱈に駆け寄って、どうした？ などと声をかけない方がいい。放って置かなければ気の毒である。それは眠っている子供を無意味に起こしてしまうようなものである。

私は以前に知らない子供からこう言われたことがあった。

公園の隅で、その子供は一枚の葉の上で天道虫がじっと動かずにいるのを見ていたので、どうしたのだろう、ちっとも動かないね、すっかり疲れたのかね、それとも……とたて続けに話しかけた時だった。その子供は私の顔をじっと見てから、天道虫は【A】？ 何もしていないことだってあるよ、と教えてくれた。

(串田孫一「無為の貴さ」)

問一 傍線部①「ぼんやりしているのと、退屈しているのとは大きな違いがある。」とあるが、両者にはどのような違いがあるのか。本文中の言葉を用いて百字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「人間はお節介で、」とあるが、どのような点で「お節介」だと言えるのか。七十字以内で答えなさい。

問三 傍線部③「子供にとって、ぼんやりすることは確かに必要なのである。」とあるが、それはなぜか。七十字以内で答えなさい。

問四 空欄【A】に入るような発言を二十字以内で考えて答えなさい。





